

## 各種表彰 おめでとうございます

- ◆文部科学大臣表彰
  - 令和5年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）  
〔個人〕佐藤 史生
  - 優秀教職員表彰  
相馬市立中村第一小学校 栄養教諭 佐藤 礼奈
  - 学校安全ボランティア活動奨励賞  
相馬市 中一小地域ぐるみで見守り隊
- ◆福島県教育・文化関係表彰
  - 社会教育功労施設 相馬市東部公民館
- ◆福島県教職員研究論文
  - 〔奨励賞〕小高産業技術高等学校 教諭 尾形 尚樹

- ◆福島県算数・数学ジュニアオリンピック
    - 〔学校特別賞〕相馬市立中村第一小学校
  - ◆ふくしまっ子体力向上優秀校
    - 〔特別賞〕相馬市立大野小学校
    - 〔優秀校〕相馬市立中村第一小学校
  - ◆ふくしまっ子元気大賞
    - 南相馬市立小高小学校
  - ◆福島県学校歯科保健優良校表彰
    - 〔努力賞〕南相馬市立大甕小学校 南相馬市立小高小学校  
相馬市立中村第一小学校
    - 〔奨励賞〕南相馬市立上真野小学校 楡葉町立楡葉小学校
  - ◆学校給食優良団体・功労者表彰
    - 〔学校給食優良団体〕新地町食育指導部会
    - 〔県教育長賞（県産食材活用部門）〕広野町学校給食共同調理場
- (敬称略)

## 相馬総合高等学校新地校舎から 新地って117（いいな）

相馬総合高等学校新地校舎  
教頭 齋藤 賢一郎

相馬総合高等学校新地校舎は、令和6年3月1日の卒業式をもって教育活動を終え、3月末に校舎を閉じることとなります。

今年度は、3年生50名が、自らの卒業と校舎の卒業を目指して学校生活を送ってきました。この間、生徒たちは、釣師潮風フェスにて、来場者から新地高校や新地校舎へのメッセージ「みんなのおもひ」を集めたり、文化祭「はまなす祭」～最後のおもひに青春を添えて～を開いたりして、117年の歴史を振り返りながら校舎への感謝を深めてきました。こうして、高校生活を締めくくめることは、大きな自信と未来へつながる財産になるものと思います。

3階建ての校舎は、昭和27年に現在の新地町小川字貝塚西に移転新築された木造校舎が、昭和50年に焼失に遭ったのちに改築される形で建てられました。移転から約70年にわたり多くの高校生を育てた建物は、まもなく、学校としての役目を終えます。

この間、ご支援を賜りました多くの関係者の方に深く感謝いたします。ありがとうございました。



## 八沢小学校 ICT 活用と街探究プロジェクト 〈閉校に向けて〉

南相馬市立八沢小学校  
校長 佐々木 徹

南相馬市立八沢小学校は、令和5年度末をもって150年の歴史に幕を閉じ閉校します。学校の閉校は、卒業生や地域の皆様にとって大変寂しいことです。しかし、私たち八沢小の教職員は、閉校という大きな出来事を教育的な価値があることと捉え、一人ひとりの子どもの学びにつなげようと考え教育活動を進めてきました。

その活動の中で最も大きな成果を上げたのが、全校児童が縦割りグループで取り組んだ「八沢街探究プロジェクト」です。のべ100人以上の地域の方々や専門家の方々にご協力いただき、様々な体験活動を行ってきました。また、体験で終わるのではなく、地域のために何ができるのかを考えICTを最大限に活用して制作活動などを行いました。これらの活動の中で、自分の思いをしっかりと言葉にする表現力も大変向上しました。

閉校とはなりますが、八沢小学校でのICTを活用した最先端の学びと地域について深く考えてきた活動は、一人ひとりの児童そして教職員の未来につながるものと信じております。



## 〈総務担当より〉 ～「扶養」について～

「扶養」には、所得税法上の控除対象扶養親族、扶養手当認定上の扶養親族、及び、共済組合の被扶養者があり、それぞれ対象となる範囲及び要件が異なります。

このうち所得要件について、所得税法上は年間の合計所得額が基準内かどうかで判断しますが、扶養手当及び共済組合においては、給与所得者の場合、雇用契約等による所得見込額を月単位で判断しますので、毎月の所得額が基準内かどうか確認する必要があります。また、扶養親族が失業給付を受給することとなった場合、所得税法上は非課税所得となり年間の所得額に加算されませんが、扶養手当及び共済組合において失業給付が基準額を超えるときは減認定となります。

扶養親族に収入がある場合は、それぞれの要件を満たしているか随時確認をお願いいたします。



## 「対話」

相双教育事務所次長(業務)兼学校教育課長 山本 秀和

米軍は日本軍のそれを上回る29000人の戦死者がでたそうです。島の中に播鉢山という小高い丘があります。元々は山の形をしていたということでしたが、米軍の艦砲射撃により山の原型を留めなくなったそうです。

コロナ禍に入る直前のことです。東京都小笠原村にある硫黄島を訪問する機会に恵まれました。東京都といっても、福島からは1400kmも離れた南海の孤島です。現在でも、一般人の上陸は禁じられて、自衛隊の基地と大手ゼネコンの社員が数十名居住しているのみです。定期便の運行はなく、通常は自衛隊機での月に2回の輸送のみだそうです。

私の祖父は、硫黄島で戦死しています。陸軍混成第二旅団独立歩兵第309大隊に所属していたとのことです。この訪問は、厚生労働省社会・援護局による慰霊巡拝並びに戦没者追悼式に参加するためでした。第二次世界大戦で戦死した遺族の代表を、それぞれ47都道府県から2名程度選出しての訪問となり、福島県からは私と父の2名でした。

硫黄島では、昭和20年3月17日に、日本軍が玉砕しました。総勢21900名の日本軍の戦死者に対して、

次年度、相双教育事務所では「対話的な学び」を共通実践事項として、相双教育アピールを大幅にリニューアルする予定です。これからの不透明で不確実な時代を生きる子供たちには、多様な他者との対話や協働を重視していくが必要になってきます。そして対話とは聴き合いであり、他者と自分の考えとの摺り合わせであり、自分の考えが変わることは厭わないという考えです。

抜けるような青い空と紺碧の美しい海、咲き乱れる赤いハイビスカスの花の中、命を賭した祖父は、今の私と、どのような「対話」を展開するのだろうか。「戦争」の対義語は「平和」ではなく「対話・尊重」であると思います。昭和から平成そして令和の時代になっても、変わらないであろう子供たちの笑顔のために、「対話」をキーワードにして、真摯に一つ一つの教育に取り組んでいきたいと考えています。



## 「新5つの愛」

葛尾村教育委員会教育長 松本 忠孝

葛尾村は昨年村制施行100周年を迎えました。また、令和5年度より第五次葛尾村振興計画がスタートし、教育分野においても「学校教育の充実」「生涯学習環境の充実」の実現に向け、村の魅力的な発展をめざしてまいります。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故により全村避難し、村立小・中学校は平成23年、24年と休校しましたが、25年に避難先の三春町で学校再開し、平成30年4月に村内での学校再開から6年が経過しました。村内での再開に向けては、村民が手作りした「花のアーチ」で子どもたちを暖かく迎え、地域の宝である子どもたちに未来を託す強い思いが感じられました。

今年度から、これまでの「4つの愛」（出愛・ふれ愛・助け愛・学び愛）に（認め愛）を加えて「新5つの愛」とし、誰もが生き生きと学び輝く、よりよい村の実現のためスタートしました。多様性に寛容で差別のない、共に助け合う地域社会を目指したいと考えています。本村が育ててきたこれらの「愛」を大切にいくことで豊かな人間関係を築くとともに、自分自身を磨き、広げ、豊かな生活を育んで行けるよう継続して推進して行きたいと考えております。

本年は、葛尾小学校創立150周年を迎えます。避難指示解除後の帰村率は低迷が続いており、児童生徒の減少による少人数教育がしばらく続くかと思いますが、これまで諸先輩方が築きあげてきた教育に対する熱い想いを尊重しつつ、これからの時代に向かって歩んで行ってもらいたいと願っております。



## リーディングスキルを視点とした 授業づくり推進事業

9月に相馬市立大野小学校で算数科の授業公開、10月に相馬市立中村第一小学校で国語科の授業公開を行いました。リーディングスキル(RS)の視点を取り入れた授業構想や、授業の中での教師の働きかけについて理解を深めることができました。11月17日(金)に行われた授業研究発表会では、相馬市立桜丘小学校、相馬市立中村第一中学校が授業公開及び実践報告を行いました。児童生徒や校種の実態を踏まえた様々な実践報告がなされ、RSを視点とした授業づくりについて理解を深めることができました。今後は、これまでに培ってきたことを、相双域内により一層広げていきたいと考えています。

## 不登校・いじめ等対策推進事業 スペシャルサポートルーム(SSR)

全国の不登校児童生徒数は30万人を超え、福島県でも大きく増加しています。

不登校・いじめ等対策では、普段から子どもたち一人一人が安心して楽しく学校に通い、充実した時間を過ごすことができる「魅力的な学校づくり」の視点が必要です。

また、課題予防・困難対応的な生徒指導の場面では、学校の全職員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が連携して対応を進めることも大切です。SSR推進校である尚英中学校、中村第一中学校、原町第一中学校の取組をぜひ参考にいただければと思います。

## 小中英語パートナーシップ事業 ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業

11月9日(木)に南相馬市立鹿島中学校、15日(水)に南相馬市立鹿島小学校で授業公開と授業研究会を行いました。令和3年度より相双域内では、①コミュニケーションを行う目的や場面、状況のある豊かな言語活動の充実が図られているか、②CAN-DOリスト形式による学習到達目標を設定し、児童生徒と共有できているかを授業改善の視点とし、授業公開と授業研究会を行ってきました。

両校で作成したCAN-DOリストについては、リストの設定・活用を普及していくために、県教育委員会webページにおいて小中連携のモデルとして公表し、広く周知を図ります。

## 理数教育優秀教員活用事業

- 算数・数学科授業研究会  
算数・数学科の授業改善と指導力向上をねらいとして計4回の授業研究会を行いました。1月26日(金)の相馬市立中村第一小学校における研究会では、文部科学省学力調査官を招聘して講演をいただき、参加者から「授業改善に向け、具体的なヒントをいただいた」といった感想が寄せられました。
- 理科授業力アップ研修会  
育みたい資質・能力を明確にした、魅力ある授業について公開授業、研究協議を計3回行いました。観察・実験講座への積極的な取組や公開授業後の参加者の活発な研究協議を通して小・中の学習内容のつながりを意識できるようになるなど、教材に対する理解が深まりました。

## ふくしまの誰一人取り残さない 教育体制整備事業

「地域で共に学び共に生きる教育」の推進を目指し、依頼により相談支援28件、研修支援2件を実施しました。(1/15 現在)相双地区には知的障がいの特別支援学校しかありませんが、各学校等のニーズに応じて、県内の視覚支援学校や聴覚支援学校等とも連携して相談に応じています。

特に相談支援に関しては、教員同士という同僚性を活かし、先生方との対話を通して具体的な部分にまで迫ることができます。また、特別支援教育の視点から、すでになされている実践のよさを改めて確認し、域内にも広げていけるようにしたいと考えています。今後ともお気軽にご活用ください。

## 道徳教育総合支援事業

推進校の南相馬市立原町第一中学校は、組織的な道徳科の授業改善の在り方をテーマに研究に取り組みました。時間割を工夫して道徳科の授業を参観しやすくしたり、授業改善の視点を明確にして互見授業を行ったりする等、道徳教育推進教師が中心となり組織的に道徳教育を展開しました。

11月10日(金)に行われた協議会では、授業公開及び推進校による実践発表等がありました。「考え、議論する道徳」につながる教師の働きかけや、教材研究について理解を深めることができました。今後は、推進校の取組を相双域内へと広げていきたいと考えています。

# 新しい学びのかたちを 相双から



## 人権教育開発事業

「自他の大切さを認め合い、学び合う子どもの育成」をテーマに、川内村人権教育研究発表会が11月13日(月)に川内村立川内小中学園で開催されました。かわうち保育園、川内小中学園の2校園が連携し、家庭・地域が一体となり、人権教育の推進に取り組むことができました。

嬉しかったこ(蛸)と、まねしたみたい(鯛)こと、温かい(貝)言葉を掲示する「Happy sea」に全校で取り組むことで、児童生徒同士が支え合ったり、認め合ったりする姿が見られ成長を感じることができました。今後もより一層、家庭や地域と連携を図っていくために、人権教育の取組に関する情報を発信していきます。

## キャリア教育推進事業

11月7日(火)に、モデル校である南相馬市立大甕小学校で実践研究発表会を行いました。

「キャリア教育の要」としての特別活動(学級活動)の授業を公開し、シンポジウムでは学校教育全体を通して展開するキャリア教育について広く議論が行われました。

職業体験や進路指導だけでなく、学級の中で一人一人の児童生徒が自分の意見を発信したり、相手の立場を考えながら協力したり、自分の担う役割を果たしたりするといった活動がキャリア教育の求める資質・能力の育成につながります。各学校での日常の指導に生かしていきましょう。

## 要請訪問を終えて

今年度実施した要請訪問を通して、日頃より先生方が子どもの内にある意欲や考えを引き出そうと取り組んでおられることや、教師主導の教え込みの授業から脱却し、今求められている「子どもが主体の学び(遊び)」の実現に向けてチャレンジされていることが伝わってきました。授業改善の取組が着実に前進していると感じています。

しかし、その一方で「対話的な学び」を意識して話合いの場面を設定しているが、単なる「教え合い」になってしまい、学びの深まりまでつながっていない場面も見受けられました。

相双教育事務所としても、来年度は特に自らの考えや集団の考えを広げ深める「対話的な学び」の在り方について、先生方と一緒に考え、授業改善を更に推進させていきたいと思っています。

## ふくしま「未来の教室」授業充実事業 次世代のためのメディアリテラシー育成事業

- ふくしま「未来の教室」実践協力校  
研究公開授業が12月5日(火)に相馬市立中村第二小学校及び中村第二中学校で、第2回地区別研究協議会が2月6日(火)にオンラインで行われました。これまでの研究の成果を共有し、今後の活用について協議しました。

- 情報モラル教育研究校  
第2回校内授業研修会が11月24日(金)に新地町立福田小学校で行われました。本年度は同町内にある情報モラル教育研究校の尚英中学校と小・中連携を図った情報モラル教育に取り組み、小中合同授業では「タイムマネジメント」をテーマとし、小学生と中学生の生活を比較しながら、キャリア教育の視点からも学習活動を行いました。

今年度末には、授業研究の成果をまとめた「情報モラル教育指導事例資料」として、指導に活用できる資料を県教育委員会webページに掲載します。